



学校だより

薫る双葉

令和8年6月18日

～チームワーク・フットワーク・ネットワーク～

第3号

6月は、校外学習や特別学習教室が目白押しの1か月となっています。
今回から数回に分けて、校外学習や〇〇教室で学びを得た、児童の感想を紹介します。

6月4日 3～6年生「情報モラル教室」

今回、情報モラル教室で様々なことを学びました。まず、インターネットやオンラインゲームで、パスワードや個人情報は、絶対、誰にも、たとえ友達でも教えてはいけないということです。悪用されるかもしれないので、断ることは大切だとわかりました。

自分は、スマートフォンを持っていないけれど、これから持つことになると思います。スマートフォンを持った時は、情報モラル教室で学んだことを意識します。

【6年1組 山本 虎市 さん】

ぼくは、今スマートフォンを持っていませんが、中学生になったら持つ予定です。そして、SNSを使うつもりだったので、今回のお話はとても勉強になりました。SNSは、相手が悪い人かも知れないから、個人情報は、絶対に教えないようにしたいです。そして、インターネットなどを使うときは、使い方を間違えないように意識したいです。

これから、トラブルにならないように正しく使いたいと思います。

【6年2組 深澤 隆博 さん】

6月9日 4年生「自転車教室」

ぼくは、みんなの前で、警察の方へ感謝の感想を伝えました。とても緊張したけれど、大きな声でがんばって気持ちを伝えることができました。ぼくは、まだ、自転車に乗れません。だけれど、今日の教室でシミュレーターの体験などを通して練習しているうちに、だんだん乗れるような気がして自信がついてきました。これからたくさん練習して、いざ乗れるようになったら、教えてもらった交通ルールをきちんと守って、あわてず楽しく、安全に走りたいです。

【4年1組 五十嵐 奨 さん】

自転車教室を体育館でやりました。わたしは、自転車はとくいですが、みんないっせいにやらずに、一人ずつだったので、びっくりしました。

自転車でふみ切りをわたる時は、後ろ右左を見ておしてわたること、わたり終わったらもう一度確かめることを初めて知りました。自転車にもこんなルールがあることを知り、これから乗る時は、このことを思い出そうと思いました。

【4年2組 三浦 望 さん】

6月9日 3年生「農家のお仕事教室」

6月9日に、やさいの宮内先生を学校によんで、キャベツについて、話をしてもらいました。キャベツの育ち方をいろいろおしえてもらったり、トウモロコシの育ち方をいろいろ教えてもらったりしてすごいと思いました。

いつも食べているやさいの育て方をおしえてもらえて、とてもべん強になりました。

朝早くからキャベツの仕事をしていて大へんだなと思いました。これからやさいを食べる時は、かんしゃをこめて、のこさず食べようと思いました。

【3年1組 山中 莉奈 さん】

わたしは、やさいのうかさんに、トウモロコシの育て方のくふうや、銚子の生さんりょうが日本一のキャベツの育て方とくふうについてお話をしてもらいました。

まず、キャベツについて話をしてもらいました。ウサギなどに食べられてしまうときもあるそうです。つぎに、トウモロコシについて話をしてもらいました。トウモロコシは、カラス、カブトムシなどたくさんのこん虫、鳥などが食べるそうです。もっとキャベツ、トウモロコシについて知りたいなと思いました。

【3年2組 丸山 真奈 さん】

☆ 学校からのお願い ☆

1 時間感覚を養うための工夫（その1）

双葉小学校の入学説明会資料には、「学校生活」について次のような記載があります。

「始業時刻は8:00です。学習道具を整理し、5分前には着席できるよう、余裕をもって登校させてください。」

つまり、8:00に教室の自分の席に座っていないと「遅刻」になってしまいます。

最近の子供たちの登校の様子を見ていると、始業時刻ギリギリ、あるいは始業時刻を過ぎて慌てて走ってくる子や、まったく慌てる様子のない子が目立つようになったと感じます。

子供が遅刻を気にしない背景には、時間に対する認識、遅刻の悪影響を実感できない状況、家庭の環境、友人たちとの関係性など、さまざまな要因が存在していると言われています。

私たち大人としては、このような理由を理解し、コミュニケーションを通じて子供に時間の大切さを教えていかなければなりません。

そのためには、子供が遅刻を気にしない理由を理解した上で、大人としてできる意識改革への援助が必要となります。そこでまず大切なのは、時間の重要性を子供自身に理解させることです。具体的には、遅刻した時の影響について、一緒に考えることが効果的です。例えば、「約束の時間に遅れたらどのようなことが起こるか」を問いかけ、子供が具体的にイメージできるようにします。この過程を繰り返すことで、遅刻が与える影響について自分で考える手助けができます。

さらに、私たち大人が、時間を守る姿勢を見せることも重要です。お子さんはご家庭では保護者、学校では教職員の行動を見て育つため、お子さんと関わりを持つ大人が、時間に対して厳格である姿勢を示すことで、自然とその影響を受けます。例えば、約束の時間を守ることで、時間を大切にする価値を知るきっかけとなります。

また、ポジティブ・フィードバックも大事です。子供が時間を守れた時は、「今日はしっかり時間を守れたね」と認めることで、良い行動を補強します。このようなサポートを通じて、子供が自分自身で時間を意識し、時間に対する認識を改善していくことが期待できます。

「時間を守る」ことは、子供の未来に様々な良い影響を与えます。時間を守る習慣が身に付くことで、学校生活だけでなく、将来的な社会生活にも役立つ基盤が築かれます。例えば、就職後も時間を守ることができるようになれば、仕事に対する信頼感や責任感が増し、周囲からの評価も向上します。

さらに、時間管理能力が向上することで、自己管理ができるようになります。計画的に物事を進める力は、学業や人間関係においても重要であり、これが良い影響を与える要素となります。このように、「時間を守る」ことは、子どもにとっての成長を促し、未来の可能性を広げる大切なステップになると言えます。

そこで、次号では、具体的ななかかわり方についてお話しさせていただきます。